コロナ対応全般についての総括～序文～

会長　浦野　正美

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は2020年１月から急激な勢いで世界に流行が拡大し、新潟市では、第１例目が2020年２月29日に確認された。その後、定期的に感染拡大と小康状態を繰り返し、2023年５月８日に５類に移行するまでに、第８波までの感染流行が確認されている。

各流行期の感染状況に応じて、その都度、国や県、市などの行政機関や、新潟大学を中心とした学術団体とも協力して、当会としてCOVID-19対策にあたってきた。その結果、新潟市を中心とした新潟県のCOVID-19死亡率が全国最低という、良好な結果をもたらすことができた。

この理由については各項目で各執筆者に分析していただくが、オール新潟といわれているように、コロナ禍以前から多職種連携等を通じて顔の見える関係を構築していたこと、初期に即応体制の中枢機能を担う県医療調整本部が立ち上がったこと、またコロナ禍を契機に急速に普及したオンライン会議を活用した頻繁な情報交換や、各種勉強会を通じて関係者の意識統一が図られたことが要因と考えられる。

５類に移行した後も、感染は次第に減りながらもまだ繰り返されており、2023年11月の時点では、まだ完全には終息していない。国の経済活動優先政策の中で、このような状況下においても、現場は様々な対応を行っている。100年に１回といわれている、パンデミックに対して、当会がどのような対応を行ったかについて、記録をまとめておくことは、今後起こりうる新興感染症の対策を決める際に大変有用と考えられる。

そこで、主にCOVID-19発生時から５類以降までの対応状況について関係諸氏に執筆していただき、新潟市医師会報に記録として残しておくことになった。

編集企画にあたっては、八木澤理事、阿部理事、熊谷理事、岡田副会長に編集委員になっていただき、理事会でも掲載内容を協議して決定した。

掲載項目をまとめるにあたっては以下の点を重視して整理した。すなわち、総括、各種対応状況、通常診療への影響、ワクチン接種、情報収集・伝達方法、入院外療養、関連機関との連携・協力状況などである。

原稿は医師会関係者と、この事業に関連した学術、行政関係者に依頼し、執筆にあたっては以下の２項目を意識して執筆していただくようにお願いした。第一にオール新潟で対応した３年半の経過を未来への参考になるように記載していただくこと。第二に誌面が限られているので、詳細なデータはPDFの形式で、ホームページ（HP）に保存して、適宜参照可能にしておくことである。HPデータ記録は医師会広報ウェブの会員専用欄にコロナのまとめとしての専用コーナーを設けて掲載した。将来的には内容を選別し、一般市民にも閲覧可能にする予定である。

また、あえて独立した冊子の形式にしなかったのは、通常の会報の特集号とすることにより、後日での検索が可能で、また保存性が保たれると考えたからである。

この特集記事によって、今後起こりうる新興感染症対応の一助となることを期待する。

各データ記録の詳細は以下で参照可能である。
https://www.niigata-er.org/press/member/covid19-summary/

なお、現時点での閲覧には新潟市医師会HPと共通のIDとパスワードの入力が必要である。

この記録集を作成中の、2023年11月16日に新潟市保健所長の髙橋善樹先生がお亡くなりになった。新潟市における初期対応にご尽力されていたが、志半ばで闘病生活に入り、さぞかしご無念であったと思う。ここに改めて敬意を表するとともにご冥福をお祈りする。